

トリチウムの取扱いに関する 選択肢について

平成26年3月13日

トリチウム水タスクフォース事務局

前回タスクフォースにおける選択肢に関する主な意見

- 30～40年の廃炉作業を考慮して40年程度までに最終形に達するものとすべき、との説明があったが、現場では、タンクから漏えいするトラブルも発生しているので、長時間かけるのではなく、迅速に処分を進めるべきではないか。 ⇒評価項目に反映。
- 固化／ゲル化して地下埋設する方法は、管理が必要となる手法であり、地中注入や蒸発等、他の選択肢とは異なる扱いにすべきではないか。
- 分離後の高濃度トリチウム水について、固化して埋設廃棄する方法が抜けているのではないか。
- 「貯蔵」と「廃棄」の違いを明確化すべき。また、「水」の形で残すことのリスクについても検討する必要がある。
- トリチウムだけが残るという前提で議論してきたので、他の核種の取扱いについて整理して欲しい。

最終形を考慮した選択肢と主な課題等(案)

<前処理>

<選択肢>

